Waseda Vision150　芸術学校の将来構想進捗状況報告

１．将来構想の背景と目標テーマ

大学全入時代の今日、〝世間体〟よりも〝やりがい〟を求めた大学新卒者が、実質的な技能習得のために専門学校へ進学する比率が年々上昇してきています。(90 年代末 3.6%が 2010 年代は 7.3%と倍増。約 1 万 5000 人)。この比率は、少子高齢化の傾向に合わせて将来も高まると予想されます。このような状況を背景にして、芸術学校は従来理系対象とされてきた建築教育を広く一般社会人にも開いて、より多くの優秀な入学者の獲得を図るべく、大学院レベルの高等教育を行う国際的なスーパースクールを目指します。

また近年顕著となる入学生の高学歴化(大学入学以上約 90%)、高年齢化(平均年齢約 28 歳)に伴う技能と知の欲求レベル向上を鑑み専門学校と学部・大学院が相互交流した強固な混成的(ハイブリット)連携体制の構築を目指します。

２．２０１３年度報告

1)ハイブリッド・エクスプレス・デザインコース(H.E.D コース)開設の検討

H.E.D コース計画については、芸術学校(学士号取得者)から大学院創造理工学研究科建築学専攻へ新たな特別推薦入学制度を用いた短期集中の一貫体制による国家試験受験資格と修士号の段階的取得を目的として、当初は現在の建築科(2年制)と建築都市設計科(3年制)を圧縮、統合した新建築科(2年制)への再編が前提でした。しかし慎重に検討を重ねた結果、夜間の2年間という短期間では、高度な目標レベルの到達が極めて困難という判断から、再編は行わず現体制を堅持することとしました。

今後は、当初から新設予定の特別推薦入学制度(従来の特別選考制度の定員を大幅に拡大した)を積極的に活用しながらも、これを現体制へと順応させた以下2つの高度建築家養成のコースの併存を2015年度より実行します。

①ハイブリッド・デザインコース(H.D コース)
　芸術学校建築都市設計科(3年制)＋創造理工学学術院大学院修士課程(2年制)＝計5年
②ハイブリット・エクスプレス・デザインコース(H.E.D コース)
　芸術学校建築科(2年制)＋創造理工学学術院大学院修士課程(2年制)＝計4年

上記2コースの選択希望者は、成績優秀者で1学年で最大10名以内を対象者として、建築科又は建築都市設計科の新卒者を原則としますが、これ以前の卒業生についても、在学時の成績及び、その後の実務業績及び研究計画内容と意欲を精査した上で、希望対象者に加えることができるものとします。

2)芸術学校と創造理工学部建築学科との授業連携の実施と相互交流の検討

①一級建築士受験資格取得のために必要な単位科目のうち、芸術学校と建築学科に共通する技術系科目について、カリキュラムと教員体制のスリム化のために芸術学校生が聴講・履修できる科目の選定を検討してきましたが、双方合意の上、以下の4科目を聴講可能科目として決定しました。

◇聴講可能科目:『建築環境学』・『建築施工法Ⅰ』・『環境設計』・『都市計画』。

しかし、これらの科目はいまだ昼間講義に限定されるため、夜間開講の芸術学校においては上記のようなスリム化への直接的な貢献はありませんが、芸術学校生にとって聴講選択肢が拡張されたことや、昼間受講可能

学生への夜間授業の負担が軽減されるなど、学生間の相互交流による教育の活性化をより促進させるものと期待できます。

②芸術学校において、これまで科目履修可能科目として一般に公開されてきた著名建築家や学外有力校専任教授陣（東大・芸大・東工大など）によるオムニバス形式の連続講義科目である『建築都市デザイン特論Ⅰ・Ⅱ』については建築学科学部生および大学院生の聴講を可能とすることを決定しました。以上6科目が決定されたが、今後は①および②の履修可能科目数を増やしていくことで、相互の連携をより深めていくよう努力することで合意しました。

3）若手非常勤講師の積極的招聘による教育能力の強化・拡大

上記1）、2）に加えて、新たな計画として、当校において進行する専任教員の高齢化に伴う、カリキュラム内容や教育意欲の硬直化を回避し、より柔軟で新鮮な組織体制を構築すべく、35才から45才までの現在活動中の若手建築家を非常勤講師として招聘し、2014年度から人事及びカリキュラム内容の積極的刷新を図ります。

３．２０１４年度計画

1）ハイブリッド・デザイン・コース（H.D コース 計5年）及びハイブリッド・エクスプレス・デザインコース（H.E.D コース 計4年）の両コースについては、まず特別推薦入学制度の詳細について①定員数、②入学資格及び能力の基準、③審査員と審査方法について芸術学校と建築学科との相互協議において春学期末まで決定し、秋学期以降の広報活動へと反映させ、2015年度春学期より実行します。

また、あわせて同制度による入学者の受け皿としての同大学院内における芸術学校兼担教員による建築芸術論コースの研究教育内容及び組織体制についての詳細を検討していきます。

2）芸術学校と創造理工学部建築学科との授業連携については、上記のように2015年度からの実施科目を6科目決定しました。
今後はこれらの科目について、聴講・履修による単位取得方法を具体的に決定していきます。
また、これ以外に授業連携可能な科目増についての策定を続けていきます。

3）若手建築家非常勤講師の積極的招聘によるカリキュラム及び人事の刷新による教育力の強化・拡大は、今年度春学期よりすでに実施しています。また秋学期より、建築芸術を取り巻く思想界・美術界などの異領域からの著名な文化人を非常勤講師として招聘し、単なる専門領域としての建築教育から、社会人相手の高等教育に相応しい新たな知的総合領域としての建築教育への脱皮を図ります。

４．今後の展望と課題

本年度の入学者傾向については、大幅な学費値上げにもかかわらず、総数としては例年より微減でしたが、新入学生は昨年より微増し、特にダブルスクール生は倍増しました。また、入学者の高年齢化・高学歴化は依然維持されていることから、初めに述べたような新大卒者の専門学校への入学者増が現実となりつつある今日的傾向はある程度確認することができました。今後は他校との差別化を積極的に行ない、大学学部、大学院と強力に連携した高等教育のスーパースクールへと一層の飛躍を図るためにも、現在の限られた専任教員の高年齢化（平均65歳）に起因した諸問題を解決するための人事刷新が必至であると考えています。